

コミュニティ活動研究所プロジェクト「那須英語セミナー」 2023 年度活動報告

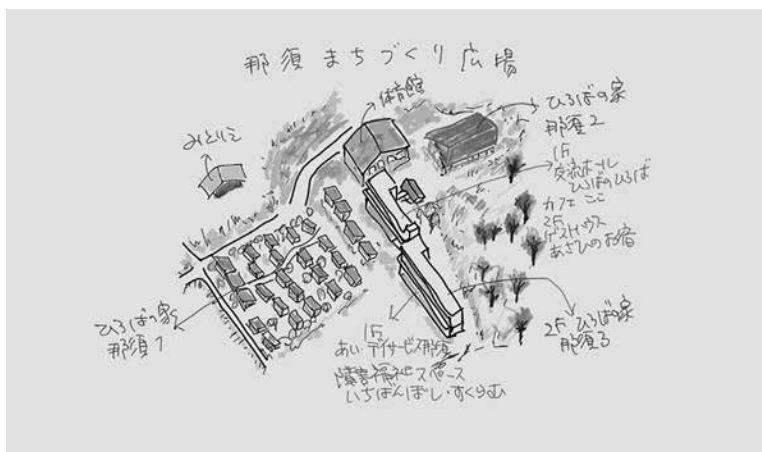
黒 岩 裕*

コミュニティ活動研究所のプロジェクトに応募した「那須英語セミナー」が2023年6月に承認された。「那須英語セミナー」は廃校を利用した施設における英語教育活動の試みで、2023年度、2024年度の2年間に渡って実施される。「那須英語セミナー」のプロジェクトには地球社会共生学部の菊池尚代先生、コミュニティ人間科学部の吉岡康子先生にも参加して頂いた。2023年度は菊池先生に地球社会共生学部で学ぶアジア人留学生の参加者を募ること、吉岡先生には訪問先の一つであるアジア学院との連絡や調整をお願いした。

「那須英語セミナー」の具体的な検討は2022年12月に始まった。まず「那須まちづくり広場」を訪問し、那須まちづくり株式会社社員の鍋木孝昭氏、さらに「那須まちづくり広場」の食堂や宿泊施設を運営するNPO法人ワーカーズ

コープに「那須英語セミナー」の計画について説明し、2023年9月初旬に「那須まちづくり広場」を拠点としてセミナーを実施することを了解して頂いた。

「那須まちづくり広場」は廃校となった旧朝日小学校を利用して2018年にオープンした共生型コミュニティで、60歳以上を対象とする自立型住宅、介護サービス付き住宅、終末期医療を行う施設、住宅困難者向けの住居などをもち、デイサービス、就労支援、児童発達支援に加えて、定期的に食や健康に関するセミナーや講演会なども行っている。「那須まちづくり広場」のある那須町は明治期になって本格的な開発が始まった土地で、日本の一般的な里山コミュニティとは異なる景観を有している。那須連山を背景にした広大な土地は北海道の風景を思わせる。住民の約半数を移住者が占める比較的歴史



那須まちづくり広場 あさひのお宿HPより

*青山学院大学

の浅いコミュニティで、観光や酪農を主要産業として今後ますます発展することが期待されている。単なる観光地ではなく、移住先や二拠点生活の拠点としても人気のある那須は、地域活性化のモデルとしてコミュニティ活動研究所にとっても興味深い研究対象と言える。

「那須英語セミナー」は那須や近隣地域に居住する外国人、ALT、英語教育関係者による英語の講義、さらに英語を使ったフィールドワークを通して、英語運用能力を高めると同時に那須に関する理解を深めることを目的としている。那須という環境で英語を学ぶため、学校の教室で行う英語教育とは異なる那須ならではの英語教育を目指している。英語教育の方法論としては、英語を通して特定の内容について学ぶCLIL（Content and Language Integrated Learning）と呼ばれる教授法に相当する。CLILと呼ばれる教授法は、語彙や文法といった言語に関する知識を習得するのではなく、英語使用を通して環境問題や人権などある特定の分野に関する理解を深め、同時に英語運用能力を高めることを目的としている。

上記の目的に沿った英語セミナーを開催するため、2023年度は那須在住のイギリス人陶芸家のJay Jago氏、那須の農家兼英語教室主催者の渋谷陽子氏、ALT派遣などを手がける栃木県の英語教育事業の会社に勤務した後、現在は那須町の移住定住支援コーディネーターを務める齋藤浩之氏、栃木県の新人ALTの研修講師を務めた経験をもち、現在は日光市でALTをしているフィリップ・ローハー氏に講師をお願いした。また4日目に訪問した「アジア学院」ではガーナ人チャブレンのティモ氏と日本人職員の山下崇氏、岡田英里氏に英語でアジア学院の歴史や理念について解説して頂いた。これらの講師の方々とは事前にメールや電話で、あるいは直接お会いして講義の内容について話し合いを行った。

講師の方々との打ち合わせは順調に進んだものの、2023年度のセミナーで一番苦労したのは

参加する学生を集めることだった。コミュニティ活動研究所の承認が下りた後、6月末から学生募集を始めたが、募集開始が遅れたこともあって、学生集めは難航した。応募締め切りを延長し、青山学院英語教育研究センターの先生方にも協力をお願いしたが、最終的に集まったのはコミュニティ人間科学部の4名だけだった（2年生1名、3年生2名、4年生1名。女性3名、男性1名）。当初はコミュニティ人間科学部の学生5名程度、地球社会共生学部の学生5名程度の参加を想定していたが、それを大きく下回る結果となった。しかしながら実際にセミナーを行って分かったのは、少人数によるメリットがいくつもあるということだった。参加者は講義やフィールドワークの際に頻繁に英語で発言する機会をもつことができた上に、夕食後の自由時間などで参加者同士の交流を深める事もできた。また少人数であるためフィールドワークの移動が容易となり、交通費も予算内で済ませることができた。

2023年度「那須英語セミナー」は上記の学生4名と引率教員1名が参加して、9月5日（火）から9月9日（土）まで実施された。講義は「那須まちづくり広場」の会議室を使い、フィールドワークについては「那須まちづくり広場」からそれぞれの場所に出かけた。参加者は「那須まちづくり広場」内の「あさひのお宿」に宿泊し、食事は食堂COCOを利用した。



那須まちづくり広場HPより

セミナーの日程と活動内容は以下の通りと

なる。3日目の担当者は当初イギリス、中国、日本の動物園で働いた経験のあるイギリス人をお願いする予定だったが、勤務シフトの関係でJay Jago氏をお願いすることとなった。また4日目の午前中は自由時間とする予定だったが、天候の都合で予定を繰り上げて午前10時30分にアジア学院を訪問することになった。

< 9月5日(火) >

- * 午前11時30分 JR那須塩原駅集合。
- * 「那須まちづくり広場」内の食堂「COCO」で昼食。
- * 「那須まちづくり広場」で鍋木孝昭氏に施設の解説や案内をして頂いた。
- * 那須在住の農家兼「なす英語倶楽部」主催の洪江陽子氏による震災後の那須地区活性化の取り組みについて英語で講演して頂いた。その後英語で質疑応答。
- * 夜は「那須まちづくり広場」でバーベキュー。鍋木氏と「那須まちづくり広場」に居住するご夫婦、洪江氏の講義に協力して頂いたALTのParis氏にも参加して頂いた。

< 9月6日(水) >

- * 午前：那須在住のイギリス人陶芸家Jay Jago氏に陶芸家としてのこれまでの歩みや陶芸の仕事について英語で話して頂いた。その後、英語でフリーディスカッションを行った。



Jay氏の工房で那須町地域おこし協力隊の長谷川彩乃さん(左から2人目)と

- * 食堂「COCO」で昼食。
- * 午後：Jay Jago氏の工房で陶芸体験。その後近くの「旧青木邸」訪問。
- * 食堂「COCO」で夕食。

< 9月7日(木) >

- * 午前：Jay Jago氏に那須の自然と暮らしについて英語で講義をして頂いた。その後英語でフリーディスカッションを行った。
- * 食堂「COCO」で昼食。「那須どうぶつ王国」に移動。
- * 午後：Jay Jago氏の英語ガイドで「那須どうぶつ王国」見学。
- * 食堂「COCO」で夕食。

< 9月8日(金) >

- * 午前10時30分にアジア学院到着。
- * アジア学院のガーナ人チャプレンのティモ氏と日本人職員の山下崇氏、岡田英里氏に英語で「アジア学院」の歴史や理念について説明して頂く。その後英語で質疑応答。
- * 岡田氏の案内でキャンパスツアー。
- * 食堂で昼食を食べながら「アジア学院」で学ぶアジア・アフリカの留学生と交流。
- * フィリピン人シェフに英語で指導を受けながら食材準備の作業を手伝う。
- * 「那須山」で入浴した後「那須まちづくり広場」に戻って夕食。

< 9月9日(土) >

- * 午前：那須町移住定住コーディネーターの齋藤浩之氏と日光市ALTフィリップ・ローハー氏による英語の講演。那須や栃木での暮らし、国際結婚、英語習得法などについて英語で講義をして頂き、その後英語で質疑応答を行った。
- * 食堂「COCO」で昼食を取りながらフリーディスカッションを行った。
- * 午後1時30分頃那須塩原駅で解散。



那須まちづくり広場の会議室で齋藤浩之氏、フィリップ・ローハー氏（後列中央と左）と

2023年度の「那須英語セミナー」は病気や怪我などのトラブルもなく無事終了することができた。「那須まちづくり広場」の方々には食事、宿泊、会議室利用、学生の送迎などで大変お世話になった。また講師の方々にも講義だけでなく、英語でのディスカッションや質疑応答の機会を提供して頂いた。洪江氏の那須農家としての体験談、Jay 氏の陶芸家としての那須の生活に関するお話は地域社会で生きることについて示唆を与えられるものだった。齋藤氏とフィリップ氏には事前に入念な準備をして頂き、英語科目を担当する引率教員にとっても参考となる素晴らしい講義をして頂いた。陶芸工房、那須どうぶつ王国、アジア学院でのフィールドワークも楽しいものとなった。参加した学生たちも今回の那須英語セミナーで貴重な体験ができたと話していた。セミナー後に提出してもらった感想には、とても良かった、他の学生にも是非勧めたい、というコメントがあった。反省点としては、講師の方々に素晴らしい講義を準備して頂いたにも関わらず学生を4名しか集めることができなかったこと、講師お一人が勤務シフトの都合で8月に辞退されたことなどが挙げられる。2024年度も夏期休暇中の9月初旬に第2回「那須英語セミナー」を実施する予定だが、これらの反省点を踏まえ、事前の打ち合わせを入念に行い、より充実したものになりたいと考えている。